

ピアレビュー委員会 (第1部会)

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準1	理念・目的
-----	-------

総評	
0101	大学で設定された基本理念・使命・教育目的を踏まえ、学部の教育研究上の目的を「あてになる技術者の育成」として設定し、大学内外の関係者が目にする文書等に明示されている [0101a] [0101b] [0101c] [0101d]。
0102	学部の教育研究上の目的を学生便覧等に明示して大学内外に対して公表している [0102a]。しかし、「自己点検・評価」の欄において引用されている根拠資料 [0102d] は見当たらず、「根拠資料」の欄に挙げられた [0102c] は本文中での引用が見当たらなかったが、ヒアリングにおいていずれも [0102b] の誤りであることが確認できた。
0102	今後とも、大学の基本理念等について、学期毎のオリエンテーション等における学生への継続的な周知が望まれる [0102a]。
長所・特色	
0101	大学で設定された基本理念・使命・教育目的を踏まえ、学部の教育研究上の目的を「あてになる技術者の育成」として設定し、大学内外の関係者が目にする文書等に明示されている [0101a] [0101b] [0101c] [0101d]。
0102	学部の教育研究上の目的を学生便覧等に明示して大学内外に対して公表している [0102a]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0102	今後とも、大学の基本理念等について、学期毎のオリエンテーション等における学生への継続的な周知が望まれる [0102a]。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準 2	内部質保証
------	-------

総評	
0203 工学部では、JABEE の対象となっている学科については JABEE の認定を受けることによって内部質保証に取り組んでいる。他にも一部の学科で外部評価委員会等による点検を受けて内部質保証を試みている。しかし、如何なる方法による点検の実施も示されていない学科が複数あるため、JABEE 認定学科のみならず、全学科における内部質保証システムの構築が望まれる[0203g]。	
長所・特色	
0203 工学部では、JABEE の対象となっている学科については JABEE の認定を受けることによって内部質保証に取り組んでいる。他にも一部の学科で外部評価委員会等による点検を受けることに加えて、非常勤講師との懇談会、卒業生・就職先企業へのアンケート等を通じて、内部質保証を試み、教育改善システムに反映している[0203g]。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0203 如何なる方法による点検の実施も示されていない学科が複数あるため、JABEE 対象の学科と同レベルの点検を全学科において実施することが望まれる[0203g]。大学の自己点検・評価の規定に基づき 2018 年度の年度評価は受けているが、その評価結果に基づく改善措置がとられたことを示す根拠資料はなく、内部質保証システムが全学科で機能しているとは確認できない。【B】	

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準4	教育課程・学習成果（1）
-----	--------------

総評	
<p>0401 ディプロマポリシー(DP)が適切な審議を経て大学ホームページに公開されている [0401c]。 0402 カリキュラムポリシー(CP)が適切な審議を経て大学ホームページに公開されている [0401c]。 0403 科目ナンバリングやカリキュラムマップによって教育課程の順次性・体系性を明確にするとともに、高大接続に配慮した教育課程の編成を行っている点は評価できる。また、工学部教務委員会を定期的開催し、学科で検討された教育課程変更案について審議している[0403b]。 0403 学習支援室で教育補助・支援を行っていることを自己点検・評価で特色にあげているが、項目番号が0404に記述することが適切であることがヒアリング時に確認された[0403d]。 0403 いくつかの学科において JABEE による外部評価を受審して、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していることを確認している[0403c]。</p>	
長所・特色	
<p>0401・0402 DP およびCP の大学ホームページでの公開が適切な審議を経て行われている [0401c]。 0403 高大接続に配慮した教育課程の編成を行っている点は評価できる[追加根拠資料：カリキュラムマップ]。 0403 いくつかの学科において JABEE による外部評価を受審して、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していることを確認している[0403c]。</p>	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	<p>【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項</p>

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準4	教育課程・学習成果（2）
-----	--------------

総評

0404 各学期の開始前に学年ごとの履修のオリエンテーション・履修相談を行い、また成績不良学生に個別に相談を行うなど、きめ細かい学生への対応を行っている [0404g] [0404h] [0404i]。

0404 少人数教育 [0404e] や習熟度別クラスでの授業 [0404b] を導入したり、実験・実習、報告書作成、発表・討論などを通して学生の主体的な参加を重視した授業が用意されたりしている [0404a] [0404b]。

0404 魅力ある授業づくりへの取り組みやFDフォーラム・講演会への積極的参加を促し、授業の点検・評価と改善に取り組んでいる [0404k]。また、シラバスどおり授業が行われていることを学期末に学科会議で確認している学科もある [追加根拠資料：都市建設工学科学科会議議事録]。

0405 「学修達成度評価アンケート」を学期末に行い、学生の授業達成状況の把握や授業内容・方法の改善につなげている点は評価できる [0404m]。

0405 卒業論文発表会を公開で行ったり、成績評価に際して、各指導教員による成績評価（案）を学科主任が取りまとめて学科教員全員に事前に開示したりすることにより公平性・客観性を担保している [0405e]。しかし、卒業論文の審査基準をルーブリック等で明確に規定している学科がある一方で、評価基準の明文化を改善すべき点として挙げている学科もある [0405d]。

0405 成績評価、単位認定および学位授与は、最終的には教授会において、他学科教員からも審査され、客観性・厳格性を確保している。ただし、個々の学科の取り組みを共有し、より一層客観性・透明性を担保するための仕組みづくりが課題となっている [0405b]。

長所・特色

0404 習熟度別クラスでの授業の実施やシラバスどおり授業が行われていることを学科会議で確認している点は他学部・他学科においても参考になる取り組みである [0404b] [追加根拠資料：都市建設工学科学科会議議事録]。

0405 応用化学科においては、「学修達成度評価アンケート」を学期末に行い、学生の授業達成状況の把握や授業内容・方法の改善につなげている点は評価できる [0404m]。

0405 卒業論文の審査基準をルーブリック等で明確に規定している学科がある点は学内的な先行モデルとしての役割が期待できる [0405d]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0405 卒業研究の評価基準が明文化されていない学科では明文化する必要がある [0404a] [0404b]。【B】

0405 成績評価や単位認定方法の客観性・透明性を担保する仕組みの検討が望まれる [0405b]。【B】

0405 卒業研究の成績評価の客観性・公平性を担保する取り組みは、全学科で行った方がよい [根拠資料：情報工学科卒業論文発表プログラム]。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準4	教育課程・学習成果（3）
-----	--------------

総評	
0406	卒業生にアンケートを実施して学科内で共有したり、学科独自のポートフォリオを作成し、学科の全学生に対して指導教員が個人面談を行い、状況把握を行ったりしている学科がある（応用化学）[0406d]。また、点数化に個人差の出やすい科目においては、ルーブリック評価を導入している学科もあり（都市建設工学）[0406f]、これらは特定の学科の取り組みではあるが、モデル的な取り組みとして評価できる。
0407	JABEEを受審している3つの学科（都市建設、建築、応用化学）では自己点検と改善のループを回すことが前提で、さらに外部評価を受けており、PDCAサイクルが確立されている[0407f] [0407c]。また、学科内にカリキュラム検討委員会や教育支援検討委員会を設けて、毎年度、PDCAサイクルを回す教育改善システムが構築され、継続的な自己・点検評価を実施している学科もある[0407e]。
0407	学科独自の卒業時のアンケート調査の実施は、定期的な教育課程およびその内容、方法の適切性を定期的に点検する機会としては有効であり、学部全体としての取り組みに拡大していくことが期待される[0406d]。
長所・特色	
0406	学科独自のポートフォリオを作成し、学科の全学生に対して指導教員が個別面談を行い、状況把握を行っている点は、学内の先行モデルとして評価できる [0406d]。
0407	JABEEを受審している3つの学科（都市建設、建築、応用化学）では自己点検と改善のループを回すことが前提で、さらに外部評価を受けており、PDCAサイクルが確立されている[0407f] [0407c]。また、学科内にカリキュラム検討委員会や教育支援検討委員会を設けて、毎年度、PDCAサイクルを回す教育改善システムが構築され、継続的な自己・点検評価を実施している学科もあり、モデル的な取り組みとして評価できる。
0407	学科独自の卒業時のアンケート調査の実施は、定期的な教育課程およびその内容、方法の適切性を定期的に点検する機会としては有効であると評価できる[0406d]。
留意点	
	*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0406・0407	各学科でさまざまな先進的な取り組みが行われているが、学部全体としての取り組みにまでは至っていないので、個別の学科の取り組みの成果と課題を共有することが望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

総評	
0501	DP、CP を踏まえた入学者受け入れ方針（AP）を適切に設定し、大学ホームページやパンフレット等で公表しているが、入学希望者に求める能力水準までは定めていない[0501a] [0501b] [0501c]。
0502	学生募集および入学者選抜の制度については、入試要項を定め、工学部入学者選抜委員会、全学の入学者選抜会議で、透明かつ公正な選抜が実施されている。ただし、AP と入試形態の整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の関連性は必ずしも明確ではない[0502b]。
0503	定員を設定し、定員管理がなされているものの、収容定員に対する在学者数の過剰または未充足に対する改善の余地を認識しており、具体的対応策についてはヒアリング時に確認した。
0504	数学のフレッシュマンテストを入試種別ごとの得点分布を検証し、学生募集戦略、選考基準の見直しに反映させるなど、学生募集および入学者選抜に関する検証、改善に取り組んでいる[0502b]。さらなる改善点について認識しており、具体的対応策についてはヒアリング時に確認した。
長所・特色	
0504	数学のフレッシュマンテストを入試種別ごとの得点分布を検証し、学生募集戦略、選考基準の見直しに反映している点は評価できる[0502b]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0501	入学希望者に求める能力水準についての検討が望まれる[0501a] [0501b] [0501c]。【B】
0502	AP と入試形態との整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の関連性を明確化するための検討が望まれる。[0502a] [0502b] 【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準6	教員・教員組織
-----	---------

総評

0602 教員組織の編成に関して、人事審議会の資格審査を通して適切な専任教員数の確保、学部の教育理念・目的を実現するために、点検と改善が明確にされている[0602a]。

0603 昇格に関する評価基準を研究業績、教育業績等に関してポイント化し明確にしておき評価できる[追加根拠資料：昇格基準]。

長所・特色

0603 人事の採用の過程が適切である。特に昇格に関してはポイント化を導入し有意な成果につながっている[0602a] [追加根拠資料：昇格基準]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準7	学生支援
-----	------

総評	
0702	学生の修学、生活、進路、キャリア支援等の全般で、手厚く適切な取り組みや支援がなされている。入学時から3年間同じ専任の指導教授が担当し、独自のポートフォリオを導入し、学生の動向の早期把握を教室会議において全教員で情報共有をしている。さらに毎学期の個人面談を実施している。また学習支援室で学科教員が直接指導することで学生の修学状況を把握でき、効果的な授業計画に繋がっている。日々の授業の出席状況から学期レベルの履修状況を把握し、4年間長期的な支援をすることにより、卒業後の適切な進路につなげている[0702a]。それらの支援の効果として、高い就職内定率は評価に値する。
0702	補習・補充・正課外教育、留学生や障がいのある学生に対しての支援が教員の個人的なレベルに留まらず、今後は学科としての対策が望まれる。
0702	インターンシップに対して、2年次の秋という比較的早い時期から経験させる点は評価に値する。
0702	学科独自の就職キックオフ・企業説明会や研究会が実施されている[0702i]。
0702	保健管理、スポーツ及び文化活動の強化に対しての直接的な自己点検・評価の記述が見受けられない。
0702	資格取得のための同好会や講習会、学習支援室の開室、チャレンジサイトなど多種多様な企画を実施し、それらのフライヤーにおける綿密な周知は高く評価できる[0702f, 0702g, 0702v]。
0702w, 0702x]。	
0702	学科単位で様々な取り組みがなされ成果を上げている。今後は成功事例の共有を図り、学科単位から学部全体への情報の共有が望まれる。
長所・特色	
0702	入学時から3年間同じ専任の指導教授が担当し、独自のポートフォリオを使用し、学生動向の早期把握を全教員で情報共有している。
0702	学科独自の就職キックオフ・企業説明会や研究会が実施されている[0702i]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

工学部

基準8

教育研究等環境

総評

0802 工学部では教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実が図られており、その具体的な成果として工学部全学科が参加するものづくり工房を実現させていることは評価できる[0802a] [0802b]。

0806 教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価した実績やそれらをもとにした改善・向上に向けた取り組みの状況は評価シートからは読み取ることができず、工学部自身が評価しているように今後の課題である。

長所・特色

0802 工学部では教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実が図られており、その具体的な成果として工学部全学科が参加するものづくり工房を実現させていることは評価できる[0802a] [0802b]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0802 評価シートにおける「課題事項」の欄に記載された項目 No. 0805 は評価・点検項目として存在しないため、項目 No. 0802 の誤りであると理解して評価した。

0806 教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価した実績やそれらをもとにした改善・向上に向けた取り組みの状況は評価シートからは読み取ることができず、工学部自身が評価しているように今後の課題であり、引き続き工学部主任会で検討することが望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学部
--------	-----

基準9	社会連携・社会貢献
-----	-----------

総評	
0902	工学部では積極的に社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しており、また海外の大学も対象を含めて様々な事業・イベント等を通じて教育研究成果を適切に社会に還元していると高く評価できる。これらの取り組みに教員のみならず学生も参加していることも評価できる[0902b] [0902c] [0902d] [0902e] [0902f] [0902g] [0902h] [0902i] [0902j] [0902k]。
0902	教員が個別に実施している地域貢献活動に関する情報の相互共有や、国際交流や研究活動への取り組みが一部の教員に偏りがある点の是正は、今後の課題である[0902c]。
長所・特色	
0902	工学部では積極的に社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しており、また海外の大学も対象を含めて様々な事業・イベント等を通じて教育研究成果を適切に社会に還元していると評価できる。これらの取り組みに教員のみならず学生も参加していることも評価できる [0902b] [0902c] [0902d] [0902e] [0902f] [0902g] [0902h] [0902i] [0902j] [0902k]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0902	教員が個別に実施している地域貢献活動に関する情報の相互共有や、国際交流や研究活動への取り組みが一部の教員に偏りがある点の是正は、今後の課題である[0902c]。【B】

